



はじめの一步

金子めぐみ

昨年三月、二年間担任した子どもたちの卒園とともに、十一年間勤めた幼稚園を退職しました。結婚、出産、夫の転勤などで職場が変わり、四回目の退職です。

その間、たくさんの卒園児を見送りました。卒園式は何度経験しても、寂しいものです。子どもたちを卒園させるたびに、この子どもたちは今まで受けもった中で一番かわいい。もう、これ以上かわいい

子どもたちには出会えないだろうと寂しさでいっぱいになります。それでも、四月に新しいクラスを担当すると、またその子どもたちの魅力に夢中になるということを繰り返してきた気がします。

卒園式で子どもたちが歌う歌の中で、私が大好きな歌があります。「はじめの一步」という歌です。ご存知の方も多いと思いますが、特に気に入っている二番の歌詞を紹介します。



信じることを わすれちゃいけない

かならず 朝は おとずれるから

ぼくらの夢を なくしちゃいけない

きつと いつかは かなうはずだよ

はじめの一步 あしたに一步

きょうから なにもかもが

あたらしい

はじめの一步 あしたに一步

生まれかわって 大きく

一步 歩きだせ

詞・新沢としひこ

この歌を聞きながら、卒園していく子どもたち一

人ひとりの顔を見つめていると、自然に涙が流れて

止まらなくなります。入園の頃、お母さんと離れら

れなくて、大泣きしていた子どもたち。その子ども

たちを不安そうに送り出していたお母さんの顔。子

どもたちと過ごした日々が次々思い出されます。そ

して、この歌のように、子どもたちに、勇気をもつ

てはじめての一步をしつかり歩みだしてほしいと心か

ら願わずにはいられません。

一年生になってからも、新しいランドセルを背

負って幼稚園に遊びにきて、うれしそうに小学校の

ことを報告してくれる子どもたちがいます。新しく

できた友達のこと、担任の先生のこと、勉強のこと

を目を輝かせながら教えてくれます。でも、うれし

い知らせばかりではありません。毎朝学校に行きた

くないと泣く娘を学校まで送って行くのがつらいと

いうお母さんや、「○○くん、学校でいじめられて

るんだ」と心配そうに教えてくれる友達もいます。

子どもたちが卒園してからも、小学校で頑張ってる

かな、友達ができたかな、楽しんでるかなと、いつ

卒園前、保護者の方々は、自分の子どもが小学校に行っても、ちゃんと先生の言うことをきけるだろうか、勉強についていけるだろうか、友達とうまく遊べるだろうかと心配されて、いろいろ相談されたり面談したりしました。

その時よくお話ししたのは、子どももっている力を信じて、あせらず見守ってあげてほしいということです。初めから何でもうまくものではありません。子どもは小学校という新しい世界に飛び込んで、とまどい、不安とたたかいながら一日過ごして帰ってきます。子どもたちは学校でエネルギーをたくさん使ってきます。家ではお母さんが子どもを受け止め充電し、よし明日も頑張ろうというパワーを与えてあげてほしい、とお願いしてきました。

小学校やその後の社会に出ていく前の幼児期に、強く生きる力をつけることが大切だと思えます。しかし実際には、小学校でよい成績をとるために、五十音や計算の練習などを幼児期から教え込ん

で、子どもたちが困らないように大人は先手先手で守ろうとしてしまいがちです。でも、もっと大切なのは、困難にあった時に逃げないで頑張る力、自分で考える力、自分の気持ちを言葉で伝える力、明日を信じる心のもとを育てることだと思います。

もう一つ、卒園児を送り出す時に、最後まで考えるのは、発達に遅れのある子どもたちの進学についてです。私が勤めていた幼稚園では、自閉症、ダウン症など発達に遅れのある子どもたちも一緒に保育する方針で、その年度によって違います。クラスに一、二名受け入れてきました。

年中組に入園した時、自閉症の可能性が高いと言



わからずお客さんのように座っているのは無意味だから、子どもに合わせたカリキュラムで少しずつでも学力を伸ばしたいと養護学級を選ぶケース。いい学校があるからと、わざわざその学校の校区に引越される方も少なくありません。

A君は、はじめ養護学校を希望していましたが、実際にいろいろな学校を見学し、普通学級との交流がもてる「なかよし学級」のある小学校を選びました。どんな形であれ、小学校に行って心の安定する居場所を見つけ、その子なりに自分の力で歩いていってほしいと願っています。

年長組の夏休みに、高機能自閉症の可能性がある
と診断されたB君。お母さんが自閉症について書かれた本をたくさん読み、B君への接し方を工夫したことでB君はとても穏やかになりました。また、得意な図形や積み木、独特の絵などを認めて大切にしたこと、生き生きと取り組むようになりました。

食べ物に対して極端な好き嫌いがありましたが、泣きながらも給食を食べようとする気持ちを認めて励ますなど、保育者と同じ考え方で協力していただきました。

集団の場でパニックをおこすことも少なく、理解力もあるため、普通学級に進学しましたが、入学前にきちんとB君の状態を小学校に伝えたことでスムーズに小学校生活がスタートし、あんなに苦手だった給食もなんとか泣かずに食べられるようになったという、うれしいお手紙を頂きました。

でも、卒園してから一度も連絡の無いC子ちゃん
のことは、今でも気がかりです。

新しい環境に慣れるのが難しく、年長になった時、保育室に入ることを頑なに嫌がり、友達をつねったり、蹴ったりすることでその不安な気持ちを保育者にアピールしようとしていたC子ちゃん。お母さんとも何度も面談し、どうすればC子ちゃんの

気持ちが安定するか話し合いました。隣のクラス（チームティーチングで同じ担任が受けもっていたもう一つのクラス）には抵抗なく入室できたため、そこで過ごすことになり、二学期後半にやっと落ち着き、普通学級に進学しました。

今頃小学校で大変な思いをしているのではないかと、親子で悩んでなければよいがと心配になりました。逆に、きつと順調に小学校生活がスタートして、今の生活のペースを乱したくないから幼稚園に顔を出さないだけだろうと思ひ込もうとします。

そんな時も、「はじめの一步」の歌を思い出します。「信じることを忘れちゃいけない。かならず朝はおとずれるから……」。今は大変でもきつとC子ちゃんにも素敵な朝が訪れるから、「C子ちゃん、お母さん、頑張つて」と祈らずにはいられません。

幼稚園教諭という立場では、その子にかかわれる

のは卒園式までですが、一緒に過ごした時間が濃く、かわりが密だっただけに、卒園し会えなくなるのはとても寂しく、またやり残したことがたくさんあるような気がしてなりません。卒園してからも、どうかその子なりに自分の力で歩いてほしい。そして「お父さん、お母さん、頑張つてください。いつまでも応援してます」という気持ちでいっぱいです。

卒園にまつわるいろいろな思いを書いてきました。子どもたちにはどんな未来が待っているのでしょうか。卒園して手を離れてしまった子どもたちですが、一人ひとりが自分のもっている力を信じて、困難に立ち向かい、悩んでもそれを乗り越えて、希望をもって前に向かって進んでほしいと思います。

「はじめの一步」。この歌を忘れずに、大きく一歩、歩きだしてほしいと心から願っています。